

5秒で変わる信号、 人が横断できません！

危険が多い通学路



質問後、少し信号が長くなったようですが、それでも渡りきれない交差点信号(河田町)

すずか 民報

第118号
2004年1月29日

日本共産党鈴鹿市議団 市政報告特集

すべての学校区で 安全対策を！

鈴鹿市内の学校区はどこでも子ども通学路の安全対策が問題になっていますが、森川議員は12月議会でも、河曲小学校区の交差点信号の改善について質問をしました。問題の河田町の信号機は現在時差信号になっていますが、歩行者専用青信号の時間がわずか5秒位と短く、子ども5人ほどの横断でも小走りに

しなければ渡れません。集団登校をする朝の横断は10人以上の団になるので、せめて一つの団が渡る長さに改善することを求めました。また、信号での渋滞を避ける車が通学路へ迂回して流れ、道幅の狭い道路で子ども通学時間と重なり、危険になっています。信号の流れをスムーズにして、通学路へ車が流れないようにする努力を求めました。土木部長からは、関係者を一同に集めて現地での対応策を協議するとの答弁がありました。市内のどこでも安心して通学路の確保のために、今後の計画的な努力が求められます。

生活相談はお気軽に



石田 秀三
TEL 71-0423



森川ヤスエ
TEL 84-3740

森川議員は12月議会でも、安心して子どもを育てるために若い世代の子育てを応援する方策として、乳幼児医療を就学前まで無料に、イ

乳幼児医療費無料を 就学前までに



森川議員は、特に乳幼児医療を就学前まで無料にし若い世代が安心して子育てできる制度にして、子育て支援を実感してもらうことが大切だと改善を求めました。

現在県の制度が、4歳児未満までなので、それ以上は市の上乗せ制度になり財政上の負担が増えるので、当面は入院の場合に限って就学前まで無料化制度を実施したいと答弁がありました。

森川議員は、鈴鹿市で実施する場合の新たな対象者は約6千人であり、新たな負担額も1億9千万円ほどです。さらに全国的に遅れた三重県が他の都道府県と足並みをそろえられるようになれば、市の負担も半減するので、鈴鹿市独自で制度化を図りながら、県への働きかけも積極的に進めることを求めました。

ンフルエンザの予防接種への補助の拡大、就学援助の対象を広げ、実態に合わせることに3点について質問をしました。

全国的に広がり、三重県下でも各市町村が独自に子育て支援を強めるようになってきます。北勢地域でも東員町では小学校入学前まで無料で、四日市市や桑名市などでも入院の場合だけと制約をつけながらも就学前の6歳児まで補助対象を広げています。

就学援助の対象を広げ、 実態に合わせて

不況が深刻になり、企業はリストラ、中小企業は倒産が進み、子どもを育てている世帯の収入の減少がはなはだしい。昨今、就学援助の対象を広げ、一時的な困難に対応することが必要です。

この制度について広報でよく知らせ、多くの保護者が認識を高められるよう努めます。また対象世帯をできるだけ

ご存知ですか 就学援助制度

小学生や中学生のいる家庭に学用品や入学準備金、給食費、医療費、修学旅行費などを補助する制度です。リストラや倒産、失業、賃金カットなどでお困りの家庭、給食費が払えないなど、子どもが大いに利用しましょう。憲法に保障された制度で、基本的にはだれでも申請できますが、所得の制限などがありますので、各学校または教育委員会学校教育課へ相談してみてください。

拡大すること、さらに入学支度金が入学に間に合わないなどの運用面での問題を改善して、制度の趣旨が活かされるよう拡充を求めました。教育委員会は制度の周知については、学校などを通じてできるだけ対応しているが、今後も努力する旨答弁がありました。

